

9. 感染症

Infection

【1】期 間 2019. 5. 7~2019. 5. 13

【2】担当教員（◎は主責任者）

コース責任者 ◎磯部 威（教授，呼吸器・臨床腫瘍学）

担当講座：呼吸器・臨床腫瘍学，呼吸器・化学療法内科，病態病理学，腫瘍・血液内科，臨床検査医学，感染対策室，卒後臨床研修センター、地域医療支援学、薬剤部

【3】学修目標

主要な感染症の疫学、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ。診断と治療に必要な病原微生物、感染臓器と治療薬の関係性を理解する。

1) 病態

- ①敗血症の症候と診断と治療を説明できる。
- ②市中感染症と院内（病院）感染症を説明できる。
- ③医療器具関連感染症（血管留置カテーテル、尿道カテーテル、人工呼吸器）、術後感染症、手術部位感染症、を説明できる。
- ④薬剤耐性(antimicrobial resistance <AMR>)、菌交代現象・菌交代症、薬剤耐性菌を概説できる。
- ⑤コロナイゼーションと感染症発症の違いを説明できる。
- ⑥コンプロマイズドホストと日和見感染症を説明できる。
- ⑦新興・再興感染症、人獣共通感染症、バイオテロに関連する感染症を列挙できる。

2) 診断・検査・治療の基本

- ①各病原微生物、各感染臓器の診断の手がかりとなる病歴と身体所見を説明できる。
- ②ウイルス感染症診断における抗原検査、核酸増幅検査、血清抗体検査を説明できる。
- ③細菌感染症診断における直接塗抹、Gram 染色、培養検査、抗原検査、核酸増幅検査、毒素検出検査、血清抗体検査を説明できる
- ④真菌感染症診断における直接塗抹、培養検査、抗原検査、核酸増幅検査を説明できる。
- ⑤病原微生物及び感染臓器ごとの適切な抗微生物薬を説明できる。
- ⑥抗菌薬適正使用(antimicrobial stewardship <AMS>)を説明できる。
- ⑦予防接種について、適応と意義、種類とそれぞれの投与方法を説明できる。
- ⑧感染症法を概説できる。

3) 疾患

A. ウイルス感染症・プリオン病

- ①インフルエンザの症候と診断と治療を説明できる。
- ②麻疹の症候と診断と合併症及び予防法を説明できる。
- ③風疹の症候と診断と合併症及び予防法を説明できる。
- ④水痘・帯状疱疹の症候と診断と治療及び予防法を説明できる。
- ⑤流行性耳下腺炎（ムンプス）の症候と診断と合併症及び予防法を説明できる。
- ⑥ヒト免疫不全ウイルス<HIV>感染症の症候と診断と治療及び感染対策を説明できる。
- ⑦単純ヘルペスウイルス感染症、伝染性紅斑、手足口病、突発性発疹、咽頭結膜熱、伝染性単核(球)症を説明できる。

- ⑧サイトメガロウイルス<CMV>感染症を説明できる。
- ⑨ヒトT細胞白血病ウイルス(human T-cell leukemia virus type 1 <HTLV-I>)感染症を説明できる。
- ⑩プリオン病を説明できる。

B. 細菌感染症

- ①黄色ブドウ球菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。
- ②A群β溶血性レンサ球菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。
- ③肺炎球菌感染症の症候と診断と治療と予防法を説明できる。
- ④インフルエンザ(桿)菌感染症とMoraxella catarrhalis感染症を説明できる。
- ⑤緑膿菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。
- ⑥大腸菌感染症の症候と診断と治療を説明できる。
- ⑦Clostridium difficile感染症の症候と診断と治療を説明できる。
- ⑧結核症、非結核性(非定型)抗酸菌症の症候と診断と治療及び予防法を説明できる。
- ⑨マイコプラズマ感染症を説明できる。
- ⑩クラミジア感染症を説明できる。
- ⑪レジオネラ感染症を説明できる。
- ⑫リケッチア感染症を説明できる。
- ⑬カンピロバクター、サルモネラ、リステリア感染症を説明できる。

C. 真菌感染症と寄生虫症

- ①カンジダ症、クリプトコックス症、アスペルギルス症の症候と診断と治療を説明できる。
- ②ニューモシスチス肺炎の症候と診断と治療を説明できる。
- ③主な寄生虫感染症(回虫症、アニサキス症、吸虫症)を説明できる。
- ④主な原虫感染症(マラリア、トキソプラズマ症、アメーバ赤痢)を説明できる。

D. 院内感染

- ①標準予防策(standard precautions)、感染経路別予防策(飛沫感染予防策、接触感染予防策や空気感染予防策等)が必要となる病原微生物を説明できる。
- ②患者から医療従事者への病原微生物曝露を防ぐための個人防護具、予防接種等を概説できる。
- ③医療従事者の体液曝露後の感染予防策を概説できる。

【4】総合評価

コース終了時に、コース全体の学習効果を評価するための筆記試験を行います。総合評価には試験成績の他に、授業アンケートによる評価等も考慮されます。

【5】参考図書

1. レジデントのための感染症診療マニュアル, 青木真, 医学書院
2. 新訂第3版 感染症診療の手引き—正しい感染症診療と抗菌薬適正使用を目指して
感染症診療の手引き編集委員会(著) シーニュ: 3版(2017)
3. 感染症プラチナマニュアル 2019, 岡 秀昭(著), メディカルサイエンスインターナショナル

【6】局所解剖 なし